

佐賀新聞

2010年(平成22年)

7月10日 土曜日

鳥栖市の川口スチール工業 開発

外壁用太陽電池パネル

県内初 最大10キロワット発電見込む



川口スチール工業が発売する住宅の外壁用太陽電池パネルと川口社長

住宅とセット販売

鳥栖市原町の川口スチール工業(川口信弘社長)は住宅外壁用の太陽電池サイディングパネルを開発した。住宅用の外壁太陽電池パネルは初めて。屋根と壁に取り付けるオール電化住宅の設計で最大10階近くの発電を見込み、余剰電力の売電による収入も期待できるという。住宅とセットで8月から販売する。

これまでの太陽電池は、屋根に載せるタイプが主流で、約30度の傾斜が必要だった。同社は昨年、フィルム状の太陽電池を使った産業用屋根材を開発。今回、さらに多方向から太陽光を集める球状シリコンを使って、垂直

ムで覆い、タイル調に仕上げた。

シリコンは京都市のクリンベンチャー21の製品を使用した。同社の球状シリコンは蜂の巣状の枠の中に入れており、枠の反射を受けて多方向から太陽光を集める仕組みになっている。

住宅プラン(2階建て延べ床約192平方メートルと合わせ約2200万円)で販売する。住宅の南面に太陽電池パネルを取り付け、屋根にフィルム型太陽電池を載せるオール電化タイプ。最大9・5割の発電を達成した場合、毎月5万円円の売電も可能という。

川口社長は「真にセルメーカーとの懸け橋になつてもらつて実現した。年内にモデルハウスを建て、発電データを集めた」と話す。(宇都宮)